

かすかなベーンソスをかもしだしている。

外葉のみ残されてゐる冬の夜の畑を満たすきやべつ
の匂ひ 大塚泰子

昼間、収穫のために働いていた人たちがいなくなつた
暗い冬の畑である。昼間の労働の余韻のような、独特の
空気をうまく表現している。きやべつ畑の歌が四首ある
中の一首。

音はづしつづつ楽し気に柞葉の母の歌へる「故郷を離
るる歌」 田中薫

八十九歳の母をうたう一連中の作。「柞葉ははなばなの」という
枕詞をうまく使って抒情性ゆたかな一首に仕上げた。た
だ、この歌のつぎに「古里さりしこの母」が出てくるの
はいかが。事実に添いすぎ、あるいはつじつまがあいす
ぎる感じ。

古書店に並べられれば背表紙の文字が再び現役とな
る 武藤義哉

人に読まれることがない文字は、なるほど現役ではな
いのだ、と納得させられる。私の家の書庫にも引退中の
文字がずいぶん居る。

少しだけ白髪を染めて会いに行く 三十年余のメモ
は箇条書 安部修治

三十年ぶりに昔の知人に会う場面らしい。どう見られ
るかに気を使っている様子なので、会う相手はたぶん女
性なのだろう。下旬、三十年の歳月の要点を心の中で整
理している感じをうまく表現した。

隣人宇宙服着て泳ぎゆく 秋 一万匹の蜜蜂飼養者
石田郁男

養蜂家の人は顔をおおうネットの面をつけ、全身をカ
バーする服をつける。それを宇宙服に見立て、その縁で
「泳ぎゆく」をもつてきた。やや比喩が穏当過ぎるか。
もっと思い切った比喩でもよかつたかとも思うが、イ
メージがはつきりしているので魅力的。

谷幾つ越え来しものか奥深き紅葉の村のセブンイレ
ブン 坂本朝子

「奥深き」に注目する。ただの紅葉の村ではない。
「奥深き紅葉」が初句とひびきあって、現実の浮き世と
は隔たった村を想像させる。そしてそこに「セブンイレ
ブン」が来る意外性。

一歩ずつ前へと指示する係員を喧しいぞと鳥獸が言
ふ 犬飼亮介

京都国立博物館で開催された「国宝鳥獸戯画と高山寺
展」に取材した一連中の作。戯画展にふさわしい戲謔的
口物を伝えて成功。最近の博物館、美術館等の混雑ぶり
はひどい。ひどすぎる。

ざつくりと切られたような生ぬるき全身の汗、血の
においする 田中徹尾

昼寝をして金縛りにあった場面らしい。珍しい経験を
思い切った直喩で表現した。結句、精一杯大げさに「血
のおいする」として成功。